

Q&A (2022年版)



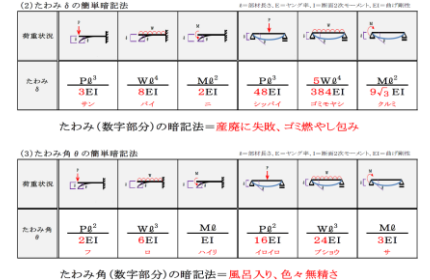
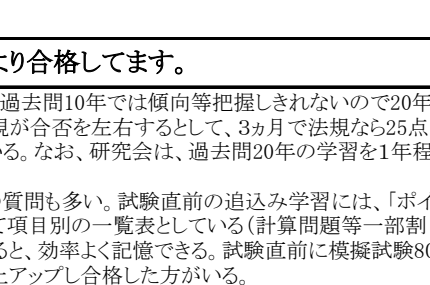
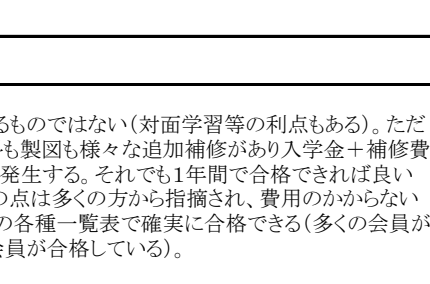
・2021年に頂いた質問の中から代表的なものを「Q&A」として取りまとめました。

1. 1級建築士のQ&A

Q1	学科YouTube講座のPDFは会員講座のみですか？解説ありですか？	 <p>熱の用語と単位の関係</p> <p>熱伝導率は熱の伝わりやすさ</p> <p>熱伝導率の逆数は熱伝導比抵抗であり、熱伝導比抵抗ではない</p> <p>熱伝導率 (W/m·K)</p> <p>熱伝導比抵抗 (m·K/W)</p> <p>熱貫流率 (W/m²·K)</p> <p>熱貫流比抵抗 (m²·K/W)</p>
A1	YouTubeのPDFは、会員講座のみであり、2021年11月から解説付です。	<p>学科YouTube講座</p>
補足	<p>ホームページ(HP)において、2021年11月から学科YouTube講座は、緑色帯の1タグ(会員講座)として独立させました。会員講座の中のYouTubeでは、公開しているYouTubeを一覧表としてアップしているとともに、PDFも公開しています(2021年11月からノート方式の解説文付)。</p> <p>なお、2021年10月から登録者数が千人を超えて広告が付きました。たぶん、1クリック時の広告料が0.1円~0.2円付きます。視聴時にご不便をお掛けして申し訳ありませんが、広告料は、すべてHP維持費のみを使用しますので、ご理解頂けますようお願い申し上げます。</p>	<p>最も出題の多いのは、用語と単位の関係です。ここでは、熱の用語について解説します。建物なら、例えば外壁があり、その外から熱が入ると、その外壁、代表的には断熱材ですが、その断熱材の中を熱が伝わり、室内へ放熱されます。用語である熱伝導率は、熱の伝わりやすさのことです。また、その逆数の熱伝導比抵抗は、熱の伝わりにくさのことです。ここを理解して、単位は逆数にすれば、それほど難しくなく暗記できます。つまり、熱伝導率の逆数が、熱伝導比抵抗であり、熱貫流率の逆数が、熱貫流比抵抗または熱貫流比抵抗となります。その単位は、表の通りですが、赤字のmとm²を注目すると簡単に暗記できます。</p>
Q2	学科YouTube講座は、どの学科をどのような順番でアップしますか？	<p>2021年11月から解説付PDFへ</p>
A2	R3組込の学科YouTubeは、2021年11月から下記順番でアップします。	<p>① 学科YouTube講座 (各学科別、各項目別)</p> <p>② ポイント箇条書きパワーポイント音声読上</p> <p>③ 各学科別、項目別の過去問20年一覧表</p>
補足	<p>R3組込の学科YouTube講座は、2021年11月から①~⑤の順番で適宜アップします。</p> <p>① R3組込の設備II YouTube講座 (アップ済み、「12空調設備」以降は音量最大)</p> <p>② R3組込の計画I YouTube講座 (2022年1月アップ完了予定)</p> <p>③ R3組込の施工V YouTube講座 (2022年2月アップ予定)</p> <p>④ R3組込の法規III YouTube講座 (2022年3月にR3組込再アップ予定)</p> <p>⑤ R3組込の構造IV YouTube講座 (2022年4月にR3組込再アップ予定)</p>	<p>学科合格は1項目1点ずつの正解による</p>
Q3	学科YouTube講座の組込で講座は、どのように変わったのですか？	<p>【2022年1月から講座の構成が矢印へ変更】</p> <p>(1) 1級建築士学科講座 ⇒ 同左</p> <p>(2) 1級建築士製図講座 ⇒ 同左</p> <p>(3) 1級YouTube講座 ⇒ 学科YouTube講座</p> <p>(4) 2級建築士講座 ⇒ 製図YouTube講座</p> <p>(5) 設備1級・構造1級講座 ⇒ ポイント箇条書きの音声読上</p>
A3	HPの学科講座は、大きく以下3種類に変更、法規IIIのみ更に2種類あります。	<p>① 学科YouTube講座 …用語解説、重要項目別解説は統合後に削除</p> <p>② ポイント箇条書きのパワーポイント音声読み上げ …スマホ対応一問一答は削除※</p> <p>③ 各学科別、項目別の過去問20年一覧表 …従来からの講座内容</p> <p>更に、法規IIIのみ、従来からの④法文一覧表、⑤法令集マーカーの講座があります。※一問一答は、HPトップにある他社「アプリ今日の5問」を活用下さい(月数百円)。</p>
補足	<p>2021年4月からYouTube講座を取り入れて、スマホ・パソコン学習を強化しました。2021年11月から、講座の構成を大きく変更し、2022年1月から次の3種類の学習内容とします。この3種類を学習すればR4学科に合格できると想定しています。</p>	<p>学科合格は1項目1点ずつの正解による</p>
Q4	HPの会員講座の構成は、どのように変更になりましたか？	<p>【2022年1月から講座の構成が矢印へ変更】</p> <p>(1) 1級建築士学科講座 ⇒ 同左</p> <p>(2) 1級建築士製図講座 ⇒ 同左</p> <p>(3) 1級YouTube講座 ⇒ 学科YouTube講座</p> <p>(4) 2級建築士講座 ⇒ 製図YouTube講座</p> <p>(5) 設備1級・構造1級講座 ⇒ ポイント箇条書きの音声読上</p>
A4	会員講座の構成は、2022年1月から下記に変更します(2021年11月変更中)。	<p>① 1級建築士学科講座 ⇒ 同左</p> <p>② 1級建築士製図講座 ⇒ 同左</p> <p>③ 1級YouTube講座 ⇒ 学科YouTube講座へ変更</p> <p>④ 2級建築士講座 ⇒ 製図YouTube講座へ変更</p> <p>⑤ 設備1級・構造1級講座 ⇒ 音声ポイント講座へ変更</p>
補足	<p>本講座は、2022年1月に1級建築士へと特化しました。HPの構成(緑色帯の講座)は、下記のように変更しました。2級建築士、設備1級建築士、構造1級建築士の講座は、削除しました(設備1級建築士は別途、他の方のHPに引き継ぐこと等を交渉中です)。</p>	<p>【2022年1月から講座の構成が矢印へ変更】</p>
Q5	R3製図課題「集合住宅」の予測3課題は、約8割以上の的中したのですか？	<p>【2022年1月から講座の構成が矢印へ変更】</p> <p>(1) 1級建築士学科講座 ⇒ 同左</p> <p>(2) 1級建築士製図講座 ⇒ 同左</p> <p>(3) 1級YouTube講座 ⇒ 学科YouTube講座</p> <p>(4) 2級建築士講座 ⇒ 製図YouTube講座</p> <p>(5) 設備1級・構造1級講座 ⇒ ポイント箇条書きの音声読上</p>
A5	R3の本試験に対して予測3課題は、約8割以上が的中しました。	<p>【2022年1月から講座の構成が矢印へ変更】</p>
補足	<p>R3集合住宅の設計課題では、右表に示すように、建設用地(規模、横縦寸法)がほぼ同じ、5階建て、2面道路、要求室は学習塾以外全てが予測できた。更に、屋上庭園、駐輪場、駐車場、軟弱地盤、大規模テナント部門も予測できた。唯一、予測できなかった学習塾も、大規模テナント部門となる交流多目的や交流会議室と計画は類似しているため、特に悩むことが無くエスキスできたと推定する。計画の要点等は、在宅勤務の考慮のみ予測できなかったが、それ以外は、的中した。特に、イメージ図の出題であった屋上緑化は全てが、住戸平面は換気図で予測内容をそのまま書けば、ほぼ苦勞なく記述及びイメージ図を完成させることができたことと推定する。</p>	<p>【2022年1月から講座の構成が矢印へ変更】</p>
Q6	R4製図試験対策として今から何を学習すれば良いですか？	<p>製図課題(H21~R2)の項目別分析</p> <p>(製図試験も過去問分析が王道)</p> <p>【項目(1)】 1. 設計条件(前文) ←解説内容</p> <p>【項目(2)】 1. 敷地及び周辺条件</p> <p>【項目(3)】 2. 建築物(1)本文</p> <p>【項目(4)】 2. 建築物(2)要求室一覧表</p> <p>【項目(5)】 3. その他の施設</p> <p>【項目(6)】 4. 計画に当たっての留意事項</p> <p>【項目(7)】 1. 要求図書(2.面積表)</p> <p>【項目(8)】 3. 計画の要点等</p>
補足	<p>来年、R4の製図試験対策としての学習は、R4の課題ができる7月までは、過去問(課題と標準解答図)を主とした学習が良いです。研究会では、新試験制度となった、平成21年からの過去問全てを8項目に分類して比較検討しています。それを主体に、過去の標準解答図と研究会でまとめている計画の要点等を学習するだけで良いです。これらを主としながら、その他、過去の課題を参考に、自主的に作図やエスキスも加えて、来年7月の課題発表を待てば、それ以外は特に不要です。</p>	<p>【2022年1月から講座の構成が矢印へ変更】</p>

・以下は、2020年まで掲載内容していた従来の内容です。参考まで残しました。

2. 1級建築士のQ&A (従来掲載内容、1級のみ)

Q1	1級学科: 一般書籍と何が違うのですか？	
A1	1級学科: 過去問20年が簡単に効率よく学習できる資料です。	
補足	HPの最大の特徴は、過去問20年分が一覧表にまとまっており、その20年間の過去問を効率よく学習することができる。一般書籍は、「過去問7年問題集」や「分野別問題」など1問ずつが詳細に解説されている。これを否定するものではなく、HPは、如何に時間をかけないで効率よく過去問を学習できるかを追求した資料である。毎年1問出題される項目の場合、過去問(20年分)がA3伴2枚の一覧表(類似問題色分)で全てが見れるので、机にこの2枚を置くと、20年分の問題傾向を簡単に把握できる(右表参照)。多くの会員の方が、この一覧表等を活用して3ヵ月程度の短期間の学習で合格をしている。	
Q2	1級学科: 法規は最新法令集に適合していますか？	
A2	1級学科: 過去問20年は2020年版法令集の法文に適合しています。	
補足	法文(法令集)は、毎年若干の変更がある。従来、実行委員(5名)では、この毎年の変更に対して、十分な対応ができなかった。その都度、会員から指摘を頂き、その部分を変更修正する状況であった。2020年、会員費用が多少残り、外注依頼することで「過去問20年の項目別一覧表(右参照)」の現法(2020年法令集対応)への全面見直しを実施した。なお、外注依頼が企業ではなく個人であることから、全てが完璧とは言えない部分もあるので、お気づきの点は従来通りメール連絡頂くと、その都度、修正を加える。	
Q3	1級学科: 構造力学が不得意ですが、どのように学習すれば良いのですか？	
A3	1級学科: 過去問以外の「7章重要解説」や「9章用語解説」等も学習して下さい。	
補足	構造力学は、構造設計者でない場合、過去問の学習だけでは簡単に解答ができない。特にHPは、解説内容が少ないので、項目別一覧表だけの学習は難しい。そこで、HP内には、「7章 項目別の重要解説」や「9章 用語解説」等の資料があるので活用頂きたい。一例として右表は、「9章 用語解説」の中の「4-2-3 たわみとたわみ角の公式の簡単暗記法」である。ゴロ合わせで簡単に公式が暗記できるものであり、ここを暗記すると、このたわみとたわみ角の問題は、高確率で簡単に解答できる。なお、研究会は、構造力学の約7問に対して、静定構造(リッター切断法)、たわみ、崩壊荷重、座屈、振動等の約半分の解答を推奨している(7問全問解答は膨大な時間を要する)。	
Q4	1級学科: 短期間で本当に合格できますか？	
A4	1級学科: 多くの方が3ヵ月の短期学習で、試験1週間前の入会でも+10点アップにより合格しています。	
補足	3ヵ月合格法: 学科試験は、過去問20年を学習すると、この学習だけで100点超えをすることが可能である(過去問10年では傾向等把握しきれないので20年分必要)。HPは、如何に効率よく過去問20年を学習できる資料(を項目別一覧表等)としている。また、法規が合否を左右するとして、3ヵ月で法規なら25点取得できる資料も提供している。その結果、多くの会員の方が、HPだけによる3ヵ月の短期間で合格している。なお、研究会は、過去問20年の学習を1年程度かけて確実に100点超えで合格することを推奨している。 1週間合格法: 試験直前の模擬試験結果が80点代であり、ここからの追込み学習にHP活用は有効か等の質問も多い。試験直前の追込み学習には、「ポイント一覧表」が有効である。このポイント一覧表は、HP開始時H7~R1全ての選択肢問題を正解文に変えて項目別の一覧表としている(計算問題等一部割愛あり)。人間は、正解文と間違文と一緒に学習すると、混乱して記憶し難い。ここを正解文のみで学習すると、効率よく記憶できる。試験直前に模擬試験80点代の方が入会し、試験前1週間会社を休み、このポイント一覧表だけを学習して、模擬試験から10点以上アップし合格した方がいる。	
Q5	1級製図: 毎年なぜ予測3課題のみで約8割以上も的中するのですか？	
A5	1級製図: S社・N社を含めた多くの分析により4年連続で8割的中しています。	
補足	HPの予測課題は3案であるが、S社・N社も含め多くの資料を分析することで、4年連続8割以上の中している。3案絞込みの理由は、S社・N社(予測課題10~15案)では全ての課題学習に膨大な時間を要し「結局何が出来る？」となることと、3案集中型の方が十分な理解が深まり本試験で応用が可能となるとの判断である。また、8割以上の中していることは、多くの資料を分析して予測課題を作成することによる(S社・N社全ての予測課題も分析、右表参照)。S社とN社でも予測課題で大きく異なる傾向もみられる。2018年(H30)の予測課題では、S社は何故か多くの課題でB1ありの予測課題であった(N社は全てB1無し、研究会は1案のみB1あり、試験ではB1無しだった)。	
Q6	1級学科・製図: 資格学校へ通学しなくても合格できますか？	
A6	1級学科・製図: HPのみ利用で学科(多数)、製図(少数)を合格しています。	
補足	第一に1級建築士の合格者の9割弱がS社・N社の受講者が占めることから、資格学校への通学を否定するものではない(対面学習等の利点もある)。ただし、あまりに高額な受講費であり、特にS社は近年入学後に追加補修をする経営方針へ転換している(学科も製図も様々な追加補修があり入学金+補修費10~20万円必要、断り難い一面あり、N社は特に追加補修費はない)。その結果、約100万円/年の費用が発生する。それでも1年間で合格できれば良いが、実際は、2年3年となりローンを組んで受講する方も多い。6年前の受講者へのアンケート調査でも、この点は多くの方から指摘され、費用のかからない(最低でも1ヶ月程度のお小遣い)で合格できるHPの開設依頼が多々あった。学科は、HPの過去問20年の各種一覧表で確実に合格できる(多くの会員が合格している)。製図は、8割以上の中する予測3課題、添削、個人質疑対応等により合格できる(若干の会員が合格している)。	